

研 究 テ ー マ	困難度の高い訪問看護業務の実施方法とサービス頻度・期間の標準化およびサービス効果の評価方法の開発
研 究 目 的	退院直後の在宅ケア開始期に焦点を当て、事例群別に必要訪問頻度・ケアの目標に沿った期間設定のあり方、実施内容と方法・アウトカム測定方法を明らかにすることとした
研 究 方 法	以下について調査、分析、研究を加えた 1. 事例予備調査と訪問看護標準化枠組みの作成 2. 標準化枠組みの事例への妥当性検証、費用効果分析
結 果 及 び 考 察	1. 以下の事例における予備調査の結果と訪問看護標準化枠組みの作成が示され、それぞれに今後の課題が残された 1) 現状維持、一定期間後に悪化が予想されるケア事例、2) 医療的ケア事例、3) 日常生活援助を主体とするケア事例、4) パターン化が困難な事例、5) 各事例群別の費用・効果分析 2. 以下の結論が示された 1) ケアの標準枠組は在宅クリニカルパスとして利用でき、ケアの質を保証 2) ケアの標準枠組はケアプラン作成、ケアマネージャーおよび第三者評価に有効 3) 必要訪問頻度と時間外ケアの実態からみたコスト管理と診療報酬制度の弾力化の必要性
研 究 助 成 金 名	平成10年度 厚生省老人保健事業推進費等補助金事業